

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」(仮称)の概要について

1 資産名称

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」(仮称)

2 所在地

福岡県……北九州市, 大牟田市, 中間市

佐賀県……佐賀市

長崎県……長崎市

熊本県……荒尾市, 宇城市

鹿児島県…鹿児島市

山口県……萩市

岩手県……釜石市

静岡県……伊豆の国市

3 暫定一覧表記載年月

平成21(2009)年1月

4 資産の概要

(1) 本遺産群の資産の範囲

19世紀後半より20世紀初頭にかけて、日本国は半世紀で産業国家に変貌した。推薦資産は明治期の重工業(製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業)における急速な産業化の道程を時間軸に沿って証言する産業遺産群(現役産業施設を含む)により構成されている。推薦資産を構成する資産は九州・山口地域を中心に、全国8県11市に立地し、地理的に分散をしているが、群として資産全体で世界遺産価値を有し、一つの範囲を構成している(いわゆるシリアルノミネーションとして登録を目指す)。

(2) 世界史的意義

重工業(製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業)は、日本経済の屋台骨を支える基幹産業である。幕末から明治後期にかけて、日本は工業立国の経済的基盤を築き、奇跡とも呼ばれる急速な産業化を果たした。20世紀初頭には、非西欧地域において、他に先駆け、最初の産業国家として国家の質を変革した。アメリカ軍東インド艦隊の江戸湾来航以降、徳川幕府が開国の方針に改めた後、僅か半世紀で、重工業の急速な産業化を進め、国家の質を変革し、産業国家の礎を築いたことは、技術、産業、社会経済に関わる世界の歴史的発展段階において、極めて、歴史的価値、技術的価値、文化的価値の高い特筆すべき類稀な事象である。

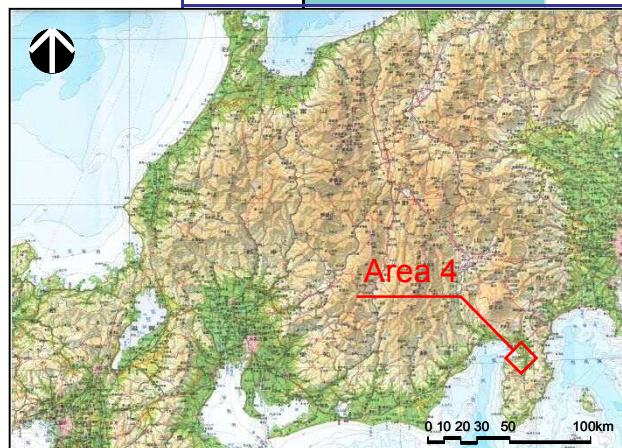
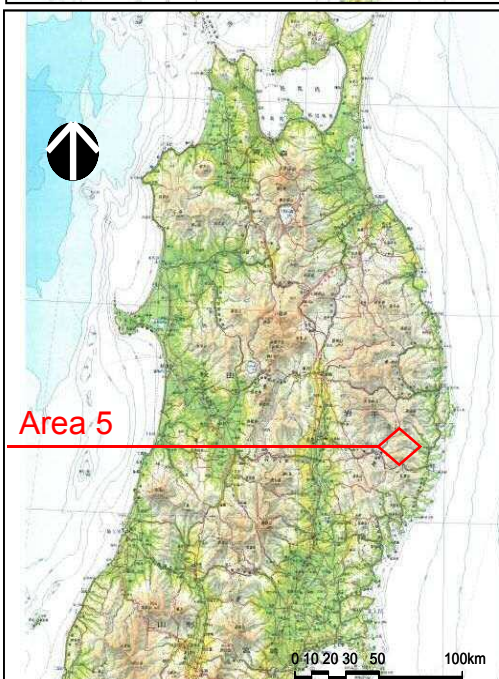
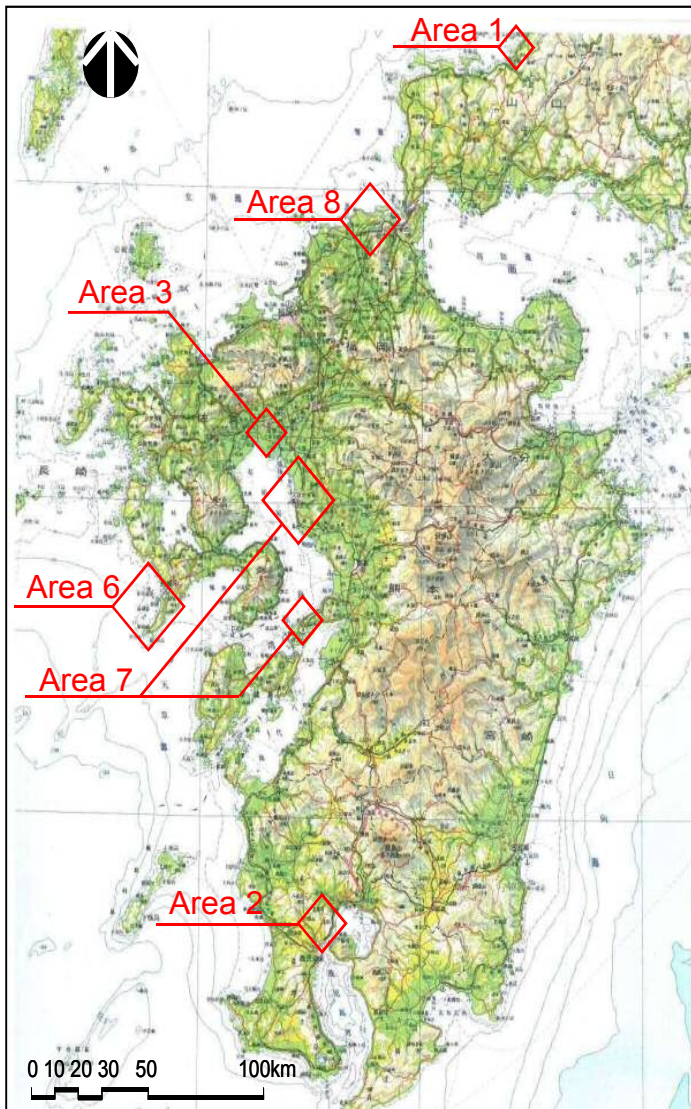
※シリアルノミネーションとは

・・・複数の資産を、同じ歴史-文化群のまとまりとして関連づけ、全体で顕著な普遍的価値を有するものとして、世界遺産に推薦すること。

5 構成資産の概要

別添のとおり(構成資産分布図及び各構成資産の概要)

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」(仮称)構成資産分布図




エリア	サイト	構成資産
1 萩	萩	萩城下町
		萩反射炉
		恵美須ヶ鼻造船所跡
		大板山たたら製鉄遺跡
2 鹿児島	集成館	旧集成館
		旧集成館機械工場
		旧鹿児島紡績所技師館
3 佐賀	三重津海軍所跡	三重津海軍所跡
4 韭山	韭山反射炉	韭山反射炉
5 釜石	橋野鉄鉱山	橋野高炉跡及び関連遺跡
6 長崎	長崎造船所	小菅修船場跡
		長崎造船所 第三船渠
		同 旧木型場
		同 ジャイアント・カンチレバークレーン
	同 占勝閣	
高島炭鉱	高島炭坑	
	端島炭坑	
旧グラバー住宅	旧グラバー住宅	
7 三池	三池炭鉱・三池港	三池炭鉱宮原坑
		同 万田坑
		同 専用鉄道敷跡
三角西港	三池港	
	三角西(旧)港	
8 八幡	八幡製鐵所	八幡製鐵所 旧本事務所
		同 修繕工場
		同 旧鍛冶工場
		同 遠賀川水源ポンプ室

(全28資産)

各構成資産の概要

エリア	サイト	番号	構成資産名	所在地	写真	概要
1	①	萩	萩城下町	山口県萩市		毛利輝元が居城として建てた旧萩城と、旧萩城の外堀から外側の城下町からなる。城下町の町筋は基盤目状に整備され、中・下級の武家屋敷や町屋が軒を連ねていた。中心路から南に向かう菊屋・伊勢屋・江戸屋横町という小路、木戸孝允旧宅などが連なり、城下町の景観を偲ばせる。伝統的な階級的社会経済景観の本質的な背景を示す。
			萩反射炉	山口県萩市		萩(長州)藩から佐賀藩に派遣された大工棟梁が持ち帰った反射炉の見取り図を基に建設された。1856年に、西洋式大砲の鑄造に必要な鉄の製造を目的に試験的に造られた。
			恵美須ヶ鼻造船所跡	山口県萩市		木戸孝允の意見書や幕府の要請により、萩(長州)藩が設けた造船所跡。1856年に「丙辰丸」、1860年に「庚申丸」という2隻の洋式軍艦を建造した。
			大板山たたら製鉄遺跡	山口県萩市		我が国の伝統的な製鉄方法である「たたら製鉄」に関する(両側に足踏み『ふいご』のついた炉、排水路、鉄池等)遺構がよく保存されている。ここで作られた鉄は幕末に萩(長州)藩が建造した洋式軍艦「丙辰丸」にも使用されている。
			松下村塾	山口県萩市		吉田松陰が門弟を教えた私塾である。松陰は西洋の教育、科学、産業を取り入れた進歩的な国づくりを夢見た。1854年にはペリー提督の艦隊に紛れてアメリカへの渡航を試みた。その教えは明治政府の教育方針である国民皆学の基礎となった。
2	②	鹿児島	旧集成館	鹿児島県鹿児島市		アヘン戦争後、欧米列強の脅威を察した薩摩藩主・島津斉彬が、反射炉による鉄製砲鑄造、洋式艦船の建造、製鉄や紡績、ガラス製造、活版印刷などの富国強兵・殖産興業政策として実施した集成館事業の工場群跡。島津家別邸として造営された名勝仙巖園の一部を含んでいる。
			6-1 寺山炭窯跡	鹿児島県鹿児島市		集成館事業の反射炉等の燃料として用いる白炭を製造するため、島津斉彬の命により1858年に建設された炭窯の跡である。
			6-2 関吉の疎水溝	鹿児島県鹿児島市		1852年、島津斉彬が集成館事業における動力水車等に水を供給するために利用を始めた疎水溝。ここから約7km離れた集成館まで導水された。
			7 旧集成館機械工場	鹿児島県鹿児島市		薩英戦争による集成館の消失後、1864年から1865年にかけて集成館事業の本格的な再構築がなされたことで建設された洋式機械工場。日本の近代の工場の建物として最も初期のものである。
			8 旧鹿児島紡績所技師館	鹿児島県鹿児島市		日本最初の西洋式紡績工場である鹿児島紡績所で技術指導に当たった7名の英国人技師の宿舎として、1867年に建てられた建物。西洋建築の輸入当初に日本各地に造られたこの種の建築のうち、初期の洋風建築を代表するものとして歴史的にも貴重である。

エリア	サイト	番号	構成資産名	所在地	写 真	概 要
3	佐賀	③ 9	三重津海軍所跡	佐賀県 佐賀市		佐賀藩が、1858年に設置した御船手稽古所を起点として整備拡張し、洋式船による海軍教育を行うとともに、藩の艦船の根拠地として、また修船・造船を行う場として機能した施設。日本初の実用蒸気船「凌風丸」の建造や、在来の土木工法による木組み構造により建設された国内最古の乾船渠が確認された。
4	韮山	④ 10	韮山反射炉	静岡県 伊豆の国市		実際に稼働した反射炉として国内で唯一現存するもの。反射炉は連双式の炉2基できており、それぞれ石製の基礎に耐火煉瓦で囲われている。連双式の炉は融解金属が一か所に集まるよう、直角に配置されていた。
5	釜石	⑤ 11	橋野高炉跡及び関連遺跡	岩手県 釜石市		鉄鉱石を使った西洋式の溶鉱炉技術の導入に成功した証拠を示すもので、3つの高炉跡のほか鉄鉱石の採掘場跡、運搬路跡など関連資産が存在する。橋野高炉は西南雄藩を中心とした西洋技術の導入と強いつながりを持ち、後の八幡製鐵所の完成に至る近代製鉄の流れの発端となっている。
6	長崎造船所	⑥ 12	小菅修船場跡	長崎県 長崎市		薩摩藩とイギリス商人トーマス・グラバーによって修船・造船を目的に創設され、日本最初の洋式船架を備える。曳揚げ小屋は長崎製のオランダ式煉瓦が使用され、曳揚げ装置はグラバーがイギリスから購入した。通称ソロバンドック。
		13	第三船渠	長崎県 長崎市		三菱重工長崎造船所では1879年に立神に第一船渠が、1896年に飽の浦に第二船渠が、1905年には向島に第三船渠が建設され、多くの船舶の修理が行われた。三菱重工長崎造船所には創成期の構造物が余り残っていない中で第三船渠は、一部拡張を行っているものの、当時の姿をとどめる貴重な資産である。
		14	旧木型場	長崎県 長崎市		鋳物用木型の製作所として建てられた煉瓦造りの建物で、かつては三菱重工長崎造船所の鋳物工場の一部だったが、現在は1985年設立の三菱史料館として使われている。収蔵品には日本最古の工作機械である幕府が長崎製鉄所建設に合わせて1857年にオランダから輸入した「堅削盤」がある。
		15	ジャイアント・カンチレバークレーン	長崎県 長崎市		1907年に英国アップルビー社が製造、マザーウェル・ブリッジ社が建設。日本へ輸入され、1909年、飽の浦の艦装岸壁に設置された。1961年、現在の岸壁に移設され現在に至る。巨大クレーンは世界でも珍しい造船の伝統を物語る。
		16	占勝閣	長崎県 長崎市		第三船渠の北方の丘上に位置し、1904年落成。専ら迎賓館として使用。占勝とは「風光景勝を占める」との意味。1905年に東伏見宮依仁親王殿下が上泊せられて命名された。

エリア	サイト	番号	構成資産名	所在地	写 真	概 要
6 長崎	⑦ 高島炭鉱	17	高島炭坑	長崎県 長崎市		開国に伴い、西洋の機械が使えるようになると、石炭の需要が大きくなり、高島において佐賀藩がイギリス出身の商人トーマス・グラバーと炭坑を開発した。北溪井坑は日本最初の蒸気機関導入による竪坑で、1881年からは三菱が所有。わが国の炭鉱の近代化の先駆けとなった。
		18	端島炭坑	長崎県 長崎市		明治中期以降に採炭事業が本格的に開始した炭坑で、1890年からは三菱の所有となり、明治後期の高島炭鉱の主力坑となった。高品位炭を産出し、国内外の石炭需要を賅った。明治末には八幡製鐵所へも原料炭を供給。大正以降高層住宅が建設され、最盛期は5千人超が住んだ。
	⑧ 旧グラバー住宅	19	旧グラバー住宅	長崎県 長崎市		西南雄藩等を支援し、石炭・造船など、当時の日本の主要産業の近代化に貢献したイギリス出身の商人トーマス・グラバーの住宅。主に接客に用いられた。棟梁は大浦天主堂などを請け負った天草出身の小山秀と思われる。
7 三池	⑨ 三池炭鉱・三池港	20	三池炭鉱 宮原坑	福岡県 大牟田市		三池炭鉱は高島炭鉱に次いで西洋の採炭技術を導入して開発された。三池炭は高品位で豊富な埋蔵量を誇り、国内外の石炭需要を担った。宮原坑は三井買収後に初めて開削された明治期から昭和初期にかけての三池炭鉱の主力坑口。第二竪坑櫓と巻揚機室等が残る。
		21	三池炭鉱 万田坑	熊本県 荒尾市 福岡県 大牟田市		万田坑は宮原坑に次いで開削された坑口。宮原坑と共に明治期から昭和中期にかけて三池炭鉱の主力坑口として機能した。第二竪坑跡と鋼鉄製の櫓、煉瓦造の巻揚機室、倉庫及びポンプ室(旧旋風機室)等の明治期における石炭鉱業の施設が良好な形で現存する。
		22	三池炭鉱 専用鉄道 敷跡	福岡県 大牟田市 熊本県 荒尾市		三池炭各坑口と積出港とを結ぶ専用鉄道。技術発展に伴い馬車鉄道から蒸気機関車、電気鉄道へと変遷した。積載量の多い石炭貨車を効率的に牽引する為に全線に亘り低勾配で設計され、切土や盛土が造成されている。煉瓦造の橋台や橋梁、開渠等の施設が現存する。
	23	三池港	福岡県 大牟田市		三池炭を大型船で直接積載し搬出する為に築港された。干満差の激しい有明海からもたらされる砂泥の影響を克服するために設けられた長大な防砂堤。潮位差を解消するための潮待ちの内港、開門を備えた船渠が計画的に配置され、現在も重要港湾として機能している。	
⑩ 三角西港	24	三角西(旧)港	熊本県 宇城市		三池炭の国外への主要輸出港であった口之津港とともに、国外への輸出港として利用された港。オランダ人ムルドルの設計。国費を投じて建設された港で、野蒜港(宮城県)、三国港(福井県)と並び我が国の明治三大築港の一つ。	

エリア	サイト	番号	構成資産名	所在地	写 真	概 要
8 八幡	⑪ 八幡製鐵所	25	八幡製鐵所 旧本事務所	福岡県 北九州市		八幡製鐵所創業2年前の1899年に竣工した初代本事務所。中央にドームを持つ左右対称形の赤煉瓦建造物で、長官室や技監室、外国人顧問技師室などが置かれた。1922年、製鐵所の規模拡大に伴って管理機能が移転した後は、鉄鋼研究所や検査室などとして利用された。
		26	八幡製鐵所 修繕工場	福岡県 北九州市		1900年、製鐵所で使用する機械の修繕、部材の製作加工等を行う目的で、ドイツのグーテホフヌクスヒュッテ(G.H.H)社の設計と鋼材を用いて建設された鉄骨建造物。その後、鋼材生産量の増大に伴って3回増築された。創業から現在まで110年以上の間、修繕工場として稼働し続けている。
		27	八幡製鐵所 旧鍛冶工場	福岡県 北九州市		1900年に、製鐵所建設に必要な鍛造品の製造を行う目的で、修繕工場と同様、ドイツのG.H.H社の設計と鋼材を用いて建設された鉄骨建造物。製鐵所の拡張工事により増築されたが、その後、1917年に現在地へ移築されるとともに製品試験所になった。現在は史料室として利用されている。
		28	遠賀川水源地ポンプ室	福岡県 中間市		遠賀川の河口から約10キロにある八幡製鐵所の取水施設。八幡製鐵所第一期拡張工事に伴う工場用水不足を補うため、1910年に建設された。明治建築の典型的な煉瓦建造物。動力は蒸気から電気に変わったが、現在も稼働中。

7 「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会について

(1) 推進体制

関係地方公共団体の連携のもとに、世界遺産への登録を推進するため、平成20年10月29日、関係6県11市により鹿児島県知事を会長とする世界遺産登録推進協議会を設置した。(現在は、8県11市体制)

また、登録に必要な専門的な調査研究を行うため、海外専門家として、ニール・コソン卿(元イングリッシュヘリテージ総裁)ほか9名、国内専門家として、西村幸夫氏(東京大学先端科学技術研究センター所長)ほか7名、計16名からなる専門家委員会を協議会に設置している。

※ 「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会

福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県、北九州市、大牟田市、中間市、佐賀市、長崎市、荒尾市、宇城市、鹿児島市、萩市、釜石市、伊豆の国市

(2) 主な取組経緯

- ・平成17年7月 鹿児島県主催で「九州近代化産業遺産シンポジウム」を開催し、「かごしま宣言」を取りまとめ
- ・平成18年6月 九州地方知事会の政策連合項目として、「九州近代化産業遺産の保存・活用」が決定し、関係県での取組へ発展
- ・平成20年9月 文化庁において世界遺産暫定一覧表への追加記載決定
- ・平成20年10月 関係自治体による世界遺産登録推進協議会を設置
- ・平成21年1月 ユネスコの世界遺産暫定一覧表へ追加記載
- ・平成21年10月 専門家委員会が提言書を取りまとめ
- ・平成23年2月 専門家委員会が推薦書原案を取りまとめ
- ・平成24年5月 「稼働中の産業遺産又はこれを含む産業遺産群を世界遺産登録に向けて推薦する場合の取扱い等について」閣議決定
- ・平成25年3月 推薦書案及び保存管理計画案の作成
- ・平成25年4月 専門家委員会が推薦書案等の最終的な取りまとめ
総会での決定を経て、推薦書案を国へ提出
- ・平成25年8月 「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」において、推薦案件候補に選定